

船舶事故調査報告書

平成26年7月24日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	浸水
発生日時	平成25年1月29日 14時00分ごろ
発生場所	愛媛県松山市波妻ノ鼻北西方沖 波妻ノ鼻灯台から真方位298° 1.35海里付近 （概位 北緯34°00.5′ 東経132°44.6′）
事故調査の経過	平成25年3月11日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 海宝丸、185トン 133903、海宝汽船株式会社 53.30m×8.80m×5.15m、鋼 ディーゼル機関、735kW、平成5年5月25日
乗組員等に関する情報	船長 男性 59歳 四級海技士（航海） 免許年月日 昭和49年6月7日 免状交付年月日 平成21年8月14日 免状有効期間満了日 平成26年9月19日
死傷者等	なし
損傷	船底中央外板に破孔
事故の経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、鋼材約660tを積載し、波妻ノ鼻北西方沖を阪神港堺泉北区に向けて北東進中、平成25年1月29日14時00分ごろ、船長が右舷に約3°傾いていることに気付いて原因を調査したところ、積荷には異常がなく、空であるはずの右舷2番バラスタंकに海水が入っていたことから愛媛県今治市伯方港に向かった。 本船は、伯方港で潜水調査を実施し、船底に破孔を生じていたことから、応急修理を行い、阪神港堺泉北区で荷揚げを行った後、造船所で船底外板の一部を張り替えて修理された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西南西、風力 3、視界 良好 海象：波高 約0.5m
その他の事項	破孔は、右舷2番バラスタंक内のバラストラインベルマウス下方の船底外板に生じていた。

<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり あり なし</p> <p>本船は、波妻ノ鼻北西方沖を北東進中、右舷2番バラストタンク内のバラストラインベルマウス下方付近において、エロージョン腐食が進行したことから、船底外板に破孔を生じ、浸水したものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、波妻ノ鼻北西方沖を北東進中、右舷2番バラストタンク内のバラストラインベルマウス下方付近において、エロージョン腐食が進行したため、船底外板に破孔を生じ、浸水したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バラストタンク等の内部検査を行う際には、エロージョン腐食の可能性のあるバラストラインベルマウス下方付近の検査を定期的に行うこと。